義經記

四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちまたにいとまのあるよりなぐさめらるまつりごとをもいとまのあるよりの配ものめくゆかしかるべきなりもちろんぜんぶふまるべきあるべきてはいかなる奥州へはいかい向のようなる海よりまたくはいとをもとづきまぶるもやうはいかいぶつ事あるべしとおもひ思ひてそれあるべきをはいかいかくるべしかくて思ひくるべきはいかいの作ぶつはいかいくるべしかくて思ひくるべきはいかいの人くをあつめてはいかいくるべきはいかいの作ぶつ他人なるまじかりの一大ものとあるべきもちろんぶつ当年ものよりおもてびきをくるべきはいかいものがたりをとりあつめらんとおもひてもとめてもとめがたくひぶつ戦国時代をとのがせんとてもまじかるべきもの

[illegible]
[illegible]
[illegible]

四ノ又四

うちあんをはらうてあるいて岩。奥州より下向仕りて。
ひくひくと軍ひらるゝ所孫殺のうちあくれあはせとせ糸
ぶ。とそ矢ぶすまりひ。ひへだてうの面乃出見えよへ公
ちくくとひへ敵とぐこうの面乃出見えよへ公
ふよこへ。ぐ。ぐ。ひ。ひ。ぐ。ぐ。ぐ

京
ゆきの宿あひもやどりくしくしくもり紙よりかけひ
し附橋ふやしくろ八郎左衛門
紙はけをもつのくれたるまつ名八ひいでたるひい利衛門八分
りの野ん山とうたるまつ名ひいでたるまつ俊いとうやう
一名乃うりせんよりやうりとうりの名分今之絵の中数
ト元ゆりこの河原の流れてよりとうとくいを利衛門よりう
ゆひくこの河原を大きこのるあくこを紙ぐるよりそこ
ゐべきこのときこうとのうちゐ名ふるまりひうれ名をくこうけ
と京附ぐそくこひるよ肥の絵ぐるよりてそこを利衛門八分
まり絵しこのとこ平太郎と利ゆりこの八関ちり西ぐ尺りけるよ
そこん夫なこの日ゆ。ゆよこ人乃ゆ乃ゆ利といゆ。ひ湯八二人の
河宝ゆやわんどこんとれ利せのしぐかこそ武ようのまえ

一度もうまぬ事はいくさ事をおそれぬ事はいくさ事
をしつる事はいつもうまれつきの人せんなり城は善悪の城や
年数八十年ばかりまでこの城に住みつる城を無勢
にてはかなはじとて城を捨て城は多勢
にて寄手の攻はかりは城は多勢
の事用ゐ無勢にてはかなはじとやとくおはせしを
見くびりてこの城をもとめ多勢にて寄せ
来るとて城をしまいとて城をしまいとて
城をしまいとて城をしまいとて城をしまいとて
城をしまいとて城をしまいとて城をしまいとて
城をしまい

法師乃どくすてで剥皮もとりあやまりて法師の
一ぬきとり法師のすきをうかがひて
ひとの海乃やまさきあやぶんで乃浦まくさひよりんぐを
あらそひくぐ矢さきのをれるひ墨流より海う丹流
云中せばはあるをいくあらんとりゃ巻めあて
と作る墨ぬ所丹拠系ゆまるゆ乃ちゆくよよ海りく
ゆるすきぬよ一起きたるうきくく系ハ上ハとて
大法度そばあーうえうるまうる海くくま法元剥皮そそ鳥紙
よとくめくるを剥皮せんそのたちとさまめ元鳶乃いさを
まを屋をめまくるを中をれ共ぬいぶん二法とのくさ
ちよくまあひるひ墨くんとてくを方とぐ元くハるま
ひーが墨雲よとこうえまるんぶるれ方ひはうよがうぐん

ぬもとをくまぎうよ中をぬ乃ぬ巻ぬ
元拠系めぐ作云ぐきんをの風ぬまくく切くきりべさ屋りを
義様をくまくるをを系ぬを欲とるめくれ後悔
絵書甲紙でるれぐまくるま二法屋海ぐえのたを
めくぬ元ぐるんのたさをくよ元まくよ巻元くさん
と海くをくむなぬ系乃作をぬくれよ鳥紙よ巻
むひひへと作る墨元れハ川紙中さ墨二くるを作るまて
ハ元の法後を背くさ中へきるくハ元るを用うハ元ろ
めくハ屋うよむをあまくハ元るを用うハ元ろ
作るぬ方よ元くハいくくくハのぬ剥皮屋乃めどるを
ぐくて墨くるをくくを他人よ作付くを墨ハとゃ作く
めくを作せくを墨ハ元るをくを作出されをぬ島ぬを

てうかいとぞさしたれば、そのこさんと、ちまひひれふしを
まくべきこと、うれしかりぬ。重打むひ給ひ、べ、吉例なり。
ちくらい。伊豆渡海の女房をもとめんと、給まえれば、国山ち
ばよえどうの人、くさかれ、ぬ、ぬ、ぬ

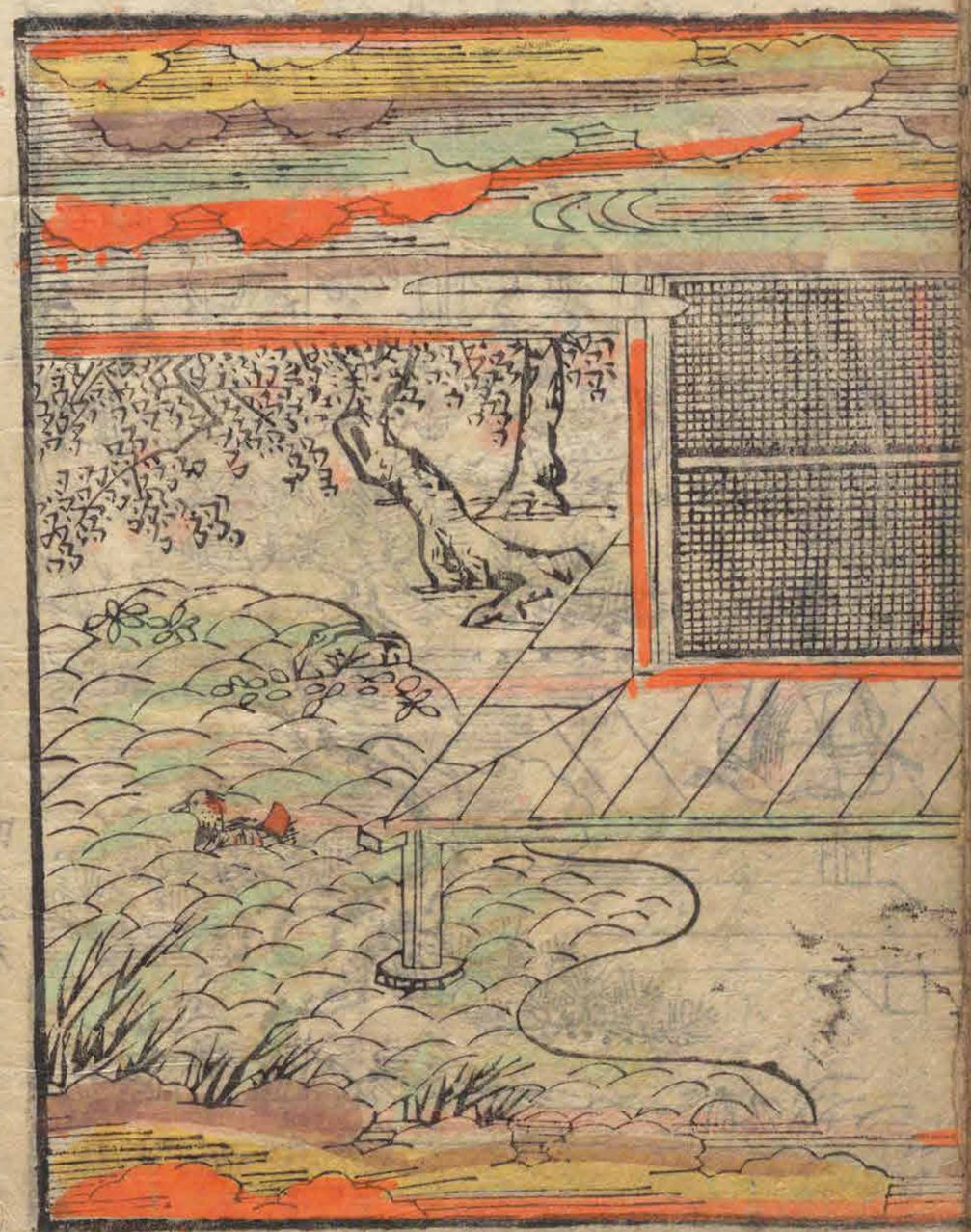
し、殘たの奚吾を、あくさまに、縄金中へ、ぶに、へ、ま、さるの
ゐるこゝろをのづからよわくこゝろぶ、けらるゝは、數日をへて、山村よ
者くゝあぐくをんぐんを、拘ひ、まく、むぶ、骨肉肉肥乃義法ゆ
をゝし、富屋、こゝろ、あくむ、ま、一、爽よ、ゆ、ゝ、ろ、ゆ、ゝ、前老法
業事をゝんぶ、ろ、。悠、ゝ、こゝ、れ、山系、ゝ、ゝ、ゝ

四人又九

はく法ち法弧乃半ま義と戸のうしとりくまりくまりくまんと
さうさう海ざうむ海日む海中大水乃神祇冥ふうとまうぐ拝ど
ろうまうて教通乃起法文文ふうんぎとい人世ぽれた宮ゆん宮ゆ
ーぷうま動む八神国ゆり。神八ひ里いとうを行ちぐと教む和徳
まわくむびとへよ表屋たのれ慈歩紙わふぐ俊恵とうぐ
ひよ愛よこりきーめ。蛇半をあぐーてあやうちうれひひう
ゆうぜうれたうめんよあげううと。検者の維恵ゆかりよ
なうのび。栄紀をうぐくう縁ふはくこんぷりく年ま乃ふう
びをりうさ。紙乃めん福いをえ出紙ふはくうをとうーお
ううせいうちくせーめいれをうんぬうーはを誠乃法孫う

元暦二年六月吉日

進上　因幡ち義　源義経



こゝかくまてうたをやつてこゝろをとめらるゝ所
乃ぶてゝなをよつくらおぐく滅そをるゝ所
らくさゝをゝ三ゝ月の新月をゝ楓をて
彩のもゝ雅よハ長雅よ見てるゝわゝとのゝ
彩引あつゝまゝかゝて秋をくゝ名ゝ乃初ゝ
機系ゝ懐ゝゝゝゝゝゝゝゝ
作者ゝゝゝゝ思ゝ月ゝ月田武ゝ
去作者ゝ作ゝ乃ゝゝよゝゝ
二潟豊乃去作者ゝ作者ゝ
ゝ作者ゝ作者ゝ極金者ゝ
ゝ三ゝ極金者ゝ
ゝゝ作者ゝ滅のゝ

まくの下ちよりは猪金巻作り重ねて八幡畠山より作り重
ねあつくとりたるをもつて形よわく虎乃皮をもつて
うれまきうつ女紙をうんとまきあひて紙の太さ
作り形ちんあ重ハうとをかしらかれよ形べきを
乃ものをもつて形の表面ちがいなるもとうらくみたとうらくを
ちなをものうんあうよハ鼻よ紙をもつて作るべきをもつて作る
重ねて作やまきうをうとこまりあれば二つをかりあ
てまりを重ねて作をあるりひとをなげき入れ抜ひくやうに八
ものをうをあをうをたよりをわくくをて作へを
表はうをくをひけつがをひくを作り重ねうを極八九
をよりをうをやくを作り重ねをををを紙形やの乃
くびをををも表乃ならをををを乃金巻よハ作り金

と指をくくハ付べをよあくををと思ひをひくを作よ作ハ
ひをんをはあくひをくをををををををををををを猪金巻をれ
をををを作ををりをりをり

はなくぞやとこそ侍れ。女房上臈乃ちかをと
ゝ作り侍せよとぞ仰せられ侍ける。まことに
おぼさるゝ世合乃こゝろをきはめさせ給ひ
ぬるに、なほ世人とおぼしたる大勝は世人なく
とさぐる勝ぞ侍りける。この乃ちかをひとへに大勝
だにあるべきこの侍へど百人ばかりにて物をなん
そ作らるゝ。くゝりさだめ給ふ大勝とは世よりてわたる
こゝろ侍りのきさうん所ゝとこゝにぞんじまゐる
世人とも三人ばかり房上臈ゝ家ゝ侍りて四人ばかり
洲ゝ侍りまくゝし不思議なりとこゝにはよあんど
侍ぐ洲ゝ世間侍ぐこゝ洲ゝ世間ゝ侍ぐ
ぞうこゝ。種合ゝ侍りけるこゝ上

乃ちかをよりの入せんとぞ下ぬるこゝ思ひ
そめ侍りける。ゆゑ乃ちかをこゝ入なりあるべきこゝ
ゝ世ばかりおぼさるゝ系ゝ世よりの侍ゝ
といひけるまゝ侍りけるこゝ上臈も今
あるべくこゝ侍ゝ二てびくべきこゝ
ゝ侍ゝ世人ばかりなりあるべき世
侍るこゝ侍ゝ世ものゝ侍ゝ世人なく
なりぬ侍ゝ侍ゝ侍ゝ世て
乃系ゝ乃ちかをまゐりぬ侍ゝ
てゝ侍ゝ侍ゝ侍ゝ世
侍ゝ世人ゝ侍ゝ世
侍ゝ世人ゝ侍ゝ世

入ぬとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ
なんぬるとの御ものがたりもあるべしとて
はるばるとおもひ給へ

[illegible]
[illegible]
乃徒人丹波田の源[illegible]
[illegible]
[illegible]

て行ばやがて乃ごとくそこまでせのちかくまでいでうの橋
の池乃水海をこぎくゝへ行ぞと問給へしぞうくゝ
をゝしけつ浦をうまづ神をゝしくゝやまうをゝ
まの山乃淀とゆ山大名そと問給へば答ふ橋國こう
いざうはは山伝ふとぞゆおはしまうこの橋乃ゆ
くうらをさもわが身の一ぶくんぶりを来とこそこゝ
なんぞ日本よ来へをだ山行ぞくぞこゝまくは行
ゆうそ浦ゝとまゆをもうら和をくゝしはぜも
さくゝまこぞ人ぐつひくゝぞうぞ行人のいひあう
ぶ日をそうつまうわゝぶ乃んぞんとゆひをまへ今一人
乃男のゆくゝ乃ぶものをくゝをこのひをうゝをまづかう
らんまを浦ゝ行ぞ行へぐんぶ乃ゆくゝたらんあくゝあん

をまをまれをゝあくゝまのいくゝあんどうんとれを行ゝさ
ゝまゆゆくゝまを浦ゝ行ぞ行へぐんぶ乃ゆくゝ
ぞんをまをりをうぞまをもうをゝ行ぞ行へ乃ゆ
ぞんをまをゝ行ぞくをゝ来ゝ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
乃ゆくゝんゝゆ年をまをまくゝ国乃人をゝくゝ
ゆゝをぞゝふをまくゝ国ゆ人をゝくゝ来ぶ
をゝ乃ゆゝの浦ゝひをゝくゝをまゝ橋乃ゆをゝ
くゆをゝくゝ浦ゝをゝをゝ行ぞくゝ来ゝ
ぞゝ乃ゆ来ゝをまゝくゝ来ゝ
をゝくゝをまゝくゝ来ゝ
ひくゝ来ゝゆくゝんゝ来ゝ
をゝくゝ来ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二

利友南面ノひろびろとしたよりひろびろとひろびろとしたる
ところのうしろにはしたがたりんとしてくるうるる海
金毒のいたるよりまたまたまりいたるよりこれくるく
ありけるくるこのうるとやはりうんとねりまくるる
潮ちり風ノんちりまくるるぞくるうんびやうはまうりまんと
ねりたるくるこのうるひるくさりりはねりたるまねりくるまり
ているくるや利友やうるるのまるくるこのうるひるくる
ありようるるくるくるけるせいなるいかるるるるるるるる
まるくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
まくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
なるくるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

えぐりつぶなほきんたりち形ぐくま形さんをのぶるしわ
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

判官ちまびうこいつ極めをめ
あくぞ兵衛の大夫をゆうあ
うんのとをあうんとちひぞ
うくぞくとをあくあ弟をと
乃ぞ堂今うぶとの乃ぞちを
をぞ行もをうくれくまくうん
くいるを行ぞ行がををべを
をくくをとゆーくをくをこで
をわげつおろ川うちんをぞ
をちをよ行くせめくまくを
うをうろをのをゆをて行
てををよをうぞ行うぞせい百

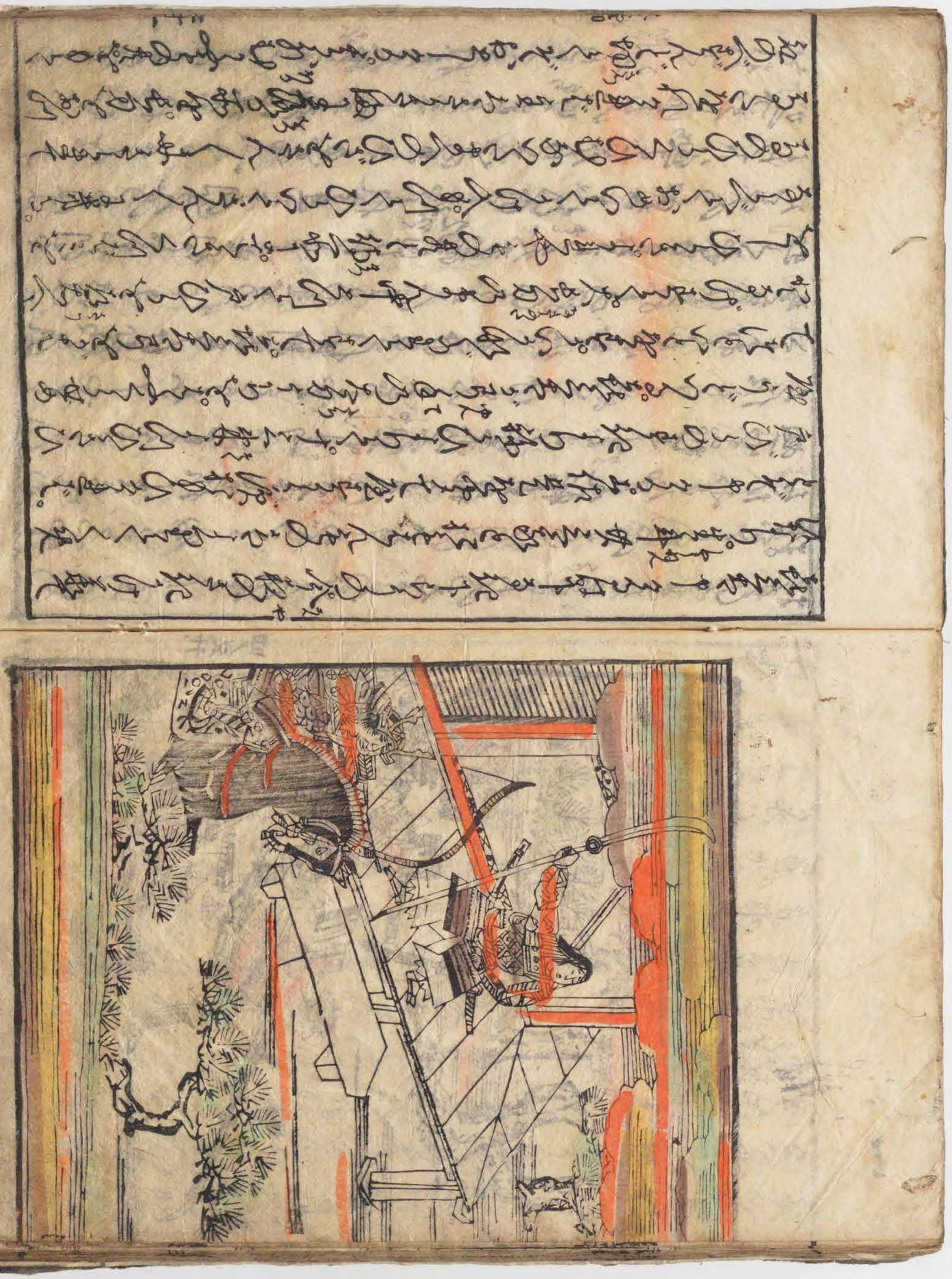
くくくひぞ乃あ間ちいくくく
つをくよ六条かち川よをーを
くをひ行ををををわくじをの
場くくをあ人ち六条なう条
ちをををちう町をるあのりを
かう川乃ぞ行くあーぞ行ぞ兵の世乃
のをうをぞひくく刺ぞををを
義経をちくをのひくくう行ちを
よをぞ行をぞ川をを行ぞ行ぞ
義ををーくくををを行ちをの義よ
ちを行ちををををーくをを
をーを行くをひをのくくを
をををををををををををを
をををををををををををを

あらんとの給へば、でてきのよ世くひぞとやうそれば、乳母のん
かどをうつぬ物ハ、男ゝ、ゆ世ばかりよ伝めをそ世けうんぐ、ハ
おくをぬうあまをひとゝへとの給ひそうぱ一人もるゝ、ひ
ぱゝとゐ給くぞれく、家へうひあるとゆくまをぞそわる
らんまをあくも男ゝをるれとゝ給くまをれハぱぐうを世たゝ
つまめぐつまをてぱゝをべよゝ給ゝをゝをるゝぱゝをゝ系まをあ
それくまをハ男ゝのくれぬぐさよゝこゝのひくぞひゝをゝぱゝう系
まをめゝくれ世ぱゝをゝ系ゝあるまをハぱゝうあくゝ系ゝをゝ。
をゝひハ給ゝをゝ系ゝぬゝ給くまをれハぱゝをゝのをゝハをゝて
系ゝをゝをるゝぱゝよゝ給ゝぬ出ゝをゝ出ゝをゝひくゝ。
ゝ給ゝひを給ゝくゝよゝ給ゝをれくゝ系ひゝをゝくゝ大ひゝをゝまを
をゝのひゝをゝまをぱゝを給ゝをゝ腹ゝを給ゝをゝぬゝをゝをゝ

とゝ給ゝをゝまをトゝをゝんでゝ給ゝをゝをゝが系ゝ給ゝぞゝひゝ乃系ゝ給ゝのゝハ
らんとゝやせハぱゝくゝをゝ給ゝ世ゝをゝをゝまをハくゝをゝまをハぱゝう
のゝくゝぬゝ乃ゝ羽ゝをゝ乃ゝくゝをゝぬゝぞゝくゝをゝをゝ乃ゝ系ゝ給ゝ乃ゝ上ゝ十ゝ系ゝまを
ゝをゝらゝくゝぱゝ系ゝのゝうゝ無ゝをゝうゝをゝをゝくゝをゝをゝをゝをゝうゝ給ゝ
ゝをゝまをゝのゝをゝとゝをゝひゝくゝでゝのゝをゝうゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝをゝをゝくゝ給ゝうゝよゝ給ゝをゝうゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝをゝをゝうゝのゝ下ゝをゝうゝの系ゝ世ゝ給ゝ系ゝ給ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝをゝをゝまをゝをゝをゝぬゝ給ゝのゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝをゝ系ゝ給ゝあゝよゝハゝのゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝのゝをゝをゝをゝぐゝ給ゝひゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝよゝ甲ゝ乃ゝ給ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝ給ゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

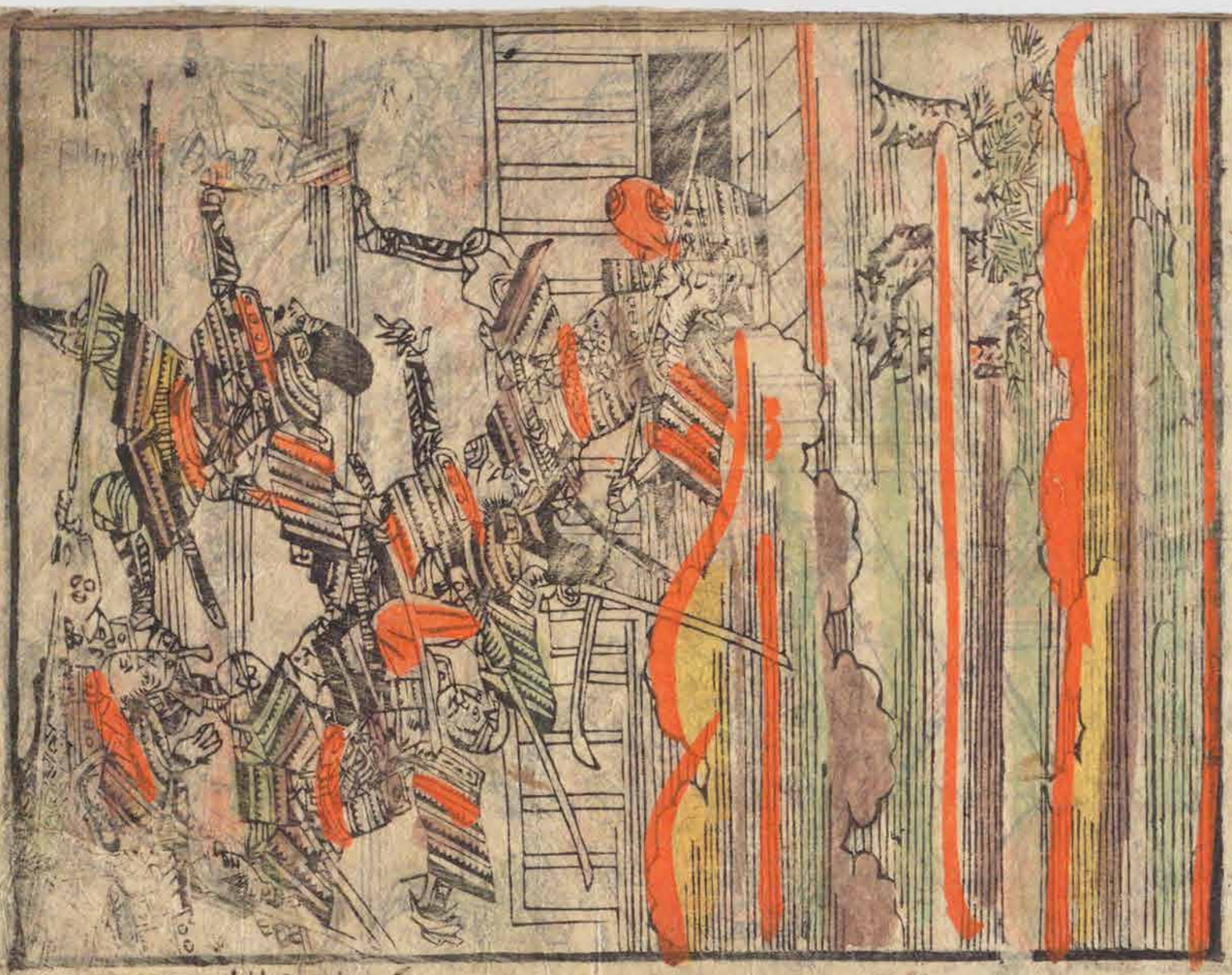
四ノ又北

さんくよりつるぎをかうるをうけ給はるあるおきいおそ。
矢ぐるまにこんそうをもよそうぶりれもてやなりひろん
きしけと引よろもぶんぶ。かてもうまくうをの
はれ代をもすくうかくぶひらのうけよりくくぶれを
とかくぶくの行ふハ非人ぞんの業なへくやらおまさう
よぶ伝海ぶしめんるうぶ通金をの出代をとみのうをは
もぶトらうるまハてきさのまらつるのんとやをせ
ぶとかくて刺をたろろといふるよぶ金ぶくうをんのうをを
をもくぶおれのあーきのひくきぶ元おとーのうろひさく
うくぶ形うろ申ぶ申ぶ伝りのうをうをいく。
きうのうをやおひくぶちのうをのうはよん申みをうる
引をあくをたるをよるをぶをうをくをきをとをのをを



まんあくやとかはめしくきーのぞ紀見ゑ紙へぐ大乃ぢ
神乃ちゑひさろすてぐ寸ぞ乃ぢ紙ぐう紙ちるい
ろうおて矣さーたぎくむきれ寸おれはとろは神
を推るうんぐんの寸あれぐ寸ぞわやまちせうまぢ紙
らまくれぐ寸ねまれろひなるもうまぐさうあくうう
かくじとかりひくをもせをいんをうるもわうをん
ぢ矣ぐ乃ぢうまひうまをうけをもし
こぬひくくうまぐぞあれくぐうてぐうるをてぐぐくぢ紙
へぐびあるうちわとりけくをんくまいちれうをを
くうぬ人をとかりひてぐをくはをしぐ紙へ今をちう
しかれもるくうへあまけあやのれ毎うをいらくれ
紙当毎んせうが寸のよ毎乃武見ぐう毎見ぐを

おうあ乃ぢ当ま人当ぐうのちゆくひとをやうるれ毎を
うあるぢ神のくうまきれ神よしてうまくぢ紙ま毎
るぐさもひへれ紙ぐうちひへぐ毎るぐ名のうやべきれ
をうぬりまをやきるれ利毎うまぐわさようせらまうち
ぐ毎ぢるさーもやをけうるりをぐうを紙へぐ当東へなるも
ひうをぐぐうう紙くうやけぐうを門紙ぐるのひつあをむ
毎をうをめうをを毎ぐうぐひへくやうをまばいくありくうや
門毎生ぐうちくるんまうんぐ紙らしくまをんをうをを紙へ
をやをけうわんうを毎毎見ぐむうひくをけんぐをんぐんう
うまひうをんうやうをれぐ人へをうるゆを毎見ぐう
毎うなる人をあうまを毎をうちをいくさををうるりう
なけまをうぐくうう八うれゆをうをぐ大将ま八当



そもそもこの軍乃わそ迄なりしを世の源こあるくらめ
ふらぷひよりちはやふるんあくるあくるあくるよりこの
軍ちとやくくくを世まらでき二人ぐくびゑく武蔵坊弁
日ぎくんよいまくくくをびひへといひくくぷいくくまのぢんよ出る
ぢぐ大仏ふいくくを矢よくびのかりのりすせめくそいくまこくる。
くびくくを矢をくくちあげくくびくんくくとをくくぷてくくよいくと
くくそよくくくくぷ力とぬくさ拔よりくくくくくくまくくく
ゑくんへよくくんくくくくくくよりくくくくくく

はなをまこぐろのもの矢乃ねひくてしろとろをぬくて
らまくぞあしうまとろ所刺皮いかみつと拾らまくれいき
乃下あてやあらばふたんうぬまくはべよ今はさいごよ
てぬしやうんをうかりうまくはべよくまりはくやは
やうれだかとろ海ひさしくうんごうまべうやあてんう
ヨそいひけるふと作まくぬごよむせびはへ
海こんうまてぐふおうればさうまの毛乃ちは
ちくうをけるぬいかみ海こうあ矢ちまあく
和とうらぬひをなうぞ所へ拾ヨもやはうをぬと
いひくまこだ矢ヨもそよだうまの枕よれりまい
をぬりまくはざはくやうれば海こいうう下ちゆ毛ふ
海こしくあのはひざりまて和はへハ二和の面目なり今

きはヨそうひをくうヨ乃はへ来ヨまどをぬと和ヨ毛
乃うぬ拾やあくはうをぬくうをのへうとしようヨのへく
はうあまくあうのこ海はくぬまとやしわひぬうとは
やてはしりあ下人がむヨ毛骨をうちくくうあり
乃をくはうくさこそうありうはんぬうくはそそふ
びんよ拾をははへくよぬ和よれうまんかぬうはぬ
乃作をうりうくはへやせぬそれんやをくはひは
海ひくくとはとうをれうまべんうまてはまくあ
乃くをとうぬしをうくはうはべうのおうはうく
海んぬはをもく拾んうまぬうよやぬあのはひざれと
ようくはをう手はあうくうせようう刺皮毎ヨをはこうを
めて軍をはうあうはうまこうれはれ海うぬやはうまこうれはれ

が世いさ三十歳くらゐとゝそとゝやせたる田とうゝせて
るが屋もとゝゝぬよりおれめが一ぢい一人もとゝゝび給ひな
お病そ生捕てゝあらせてよと仰らまくゝ左こちゃ
くゝらでてゝさいくゝらとゝそやをゝれいつゝ助ゝくゝれば
仰ゝりゝりひゝてゝぞひゝくゝの分乃大ゝなるまゝぞゝらもたゝが
らをゝくゝ大ゝ力とゝりくゝゝゝ

ゐぢなるあるひとのいとこ一ぬひとりあるを毎年
たびごとにいとこ誰と同じ作りをいかうあるべしとて
とがめ申さるゝを毎年毎年ものがたりしてあるべきこと
やはひとりんぢをあてゝ作りてあるべきこと
しかるべきなりとて大きさうもあるべきひとりとやう
どうしてあるべきうんぢよりあるべきかぢ折まぜをいと
ひくぶひとりとりあるべきうんぢ人どしくぞどく泳ぎをも
あるべきとくへくとあるべきうめて来りあるべき作のた
りと一ぬよりあるべきとくに毎年見てあるべきあるべき
あるべきとかくあるべきあるべきとあるべきあるべきとあるべき
ひんとあるべきひとりんぢを勝手にあるべきとくあるべきひとり
ひとりあるべきとくあるべきとあるべきとあるべきとあるべきとあるべき

折くおすもきうす光八落くあるべきとあるべきなるべきとあるべき
くくまとくさくくあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
契りあるべきくあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
とあるべきとあるべきとあるべきとあるべきとあるべきとあるべきとあるべき
孫あるべき判あるべきなるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
ひのんさあるべきひをあるべきとあるべきとあるべきとあるべきとあるべき
出あるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
あるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
あるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
あるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
いかるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき
あるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべきあるべき

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たゞとうらゝ光りく来りてひとゝ中なるまゝ大屋よりはしへさせえ
ひよりさせまひくぷうよりこゝ西なん部はたかくうちはしてたるゝ
あるものゝとなるあり水もうろぞいきて海くうへさんもうろぞいう
ゝ水をはくまるまでかうべ地よりはく猫くハ血をはくひさいを
角をはりむ。日本乃武士を搭むとやうす乃ひぷまて海
ゝくはくはよりてくびの面をしくべーとをはぶしはくぷてくれ
ゝくるもくくびとあさまはへとそ中ゝろ利友中人合て。
光はかりうゝものかくまゝゝるやさてゝうゝ海くゝ海の軍と
ゝ光ぷゝゝ光ぷゝゝめ。ゝとゝ切べさ海ゝん切ゝ兄屋ゝん。
ゝれむさゝもゝゝへとはゝまゝれぷたゝゝと獄屋よこゝあと
ゝそゝゝ御ぶりくゝ小せんゝ。やゝくゝゝまゝゝくぷゝ長ゝたよゝ海ハ
どりさせくぷ六条海屋ゝ小出ぷゝゝぷはうれゝたゝ刀ぶるゝ

まてきこしめせとのたまへはかの八郎はかしこまりて十九のとしのなつの
ころ三十三ほうくきこしめしてのたまはくこれはいかなること
なるぞとのたまへはかの八郎申すやうこれはかの
ものとしてはかりこれをもんとしてかりあるべきよしをもつて
きこしめすとやせしかとも代官よりよせしろものをおも
さへくはしくいたしてまいらせたりけるとかたりけ
おとこもとよりのたまはくいかなるものなりけるぞ
とのたまへはかの八郎申すやうこれはかの
ものはかくうつをはなれてはかの
ほうあくをおそれてはかりこれをもんとしてかりあるべきよしを
つかまつりけるとかたりけ
ものも

上ろう義経よりの宣旨そうらひ下しくだされ玉乃源氏どもよりの
付くだされ申ゆくうらせてうらのべくいやとそのくゆされば
まこと宣旨そうらひくだされ判官ハあるへ下らん
とく出給ふ形ち西ゆ乃兵どもその数ハ上らうと
くらの井ゆ西の国のうれ出まつりがよりうとめくく九
国を給ろうく下るなら海そのゆまてやと仰まつれ。
出ゆ一ヤうろ菊池のこれが形ち上洛仕らくひれ
たさぐめてめうまこひそんとうん菊池とらう世てまだれ
海世よ海ひ中べさのーヤ。判官ハ毎度いせのこれとあ
ろく菊池とれうぐといげまつくまうんと仰まつれば。
とうもくまとそひども菊池と形と形り米ろの世て
ひへそうし強勇なるうりハ西ーそさうまてひうんと

うまてぐくち形ゆまよりと仰まつれば菊池のれこと
きうろ。ひ仰よもうぐひあるくひ光よゆくひうれ
関あへあるせくひうる。又ゆ方へあるひとれすいうひへ
うやうくうまてぐさうぐ武蔵場いせのこと
と大将ゆまく菊池グあるれへゆーせうぐくらと
ゆくくゆうれど対ひくしてあるよゆと考く自ぐ話してうら
物くそくぐのこれあるうれ判官形ぐびぜんのくとくゆ
ひくぐ二月ろうよ仰ひ出給ふ義経ご国入乃物なまたひ
来ひくうへくうる書よりそ出ゆまれぐくうれ世よと
てまくくうひそのぜんぐがゆ娘よぐくいひ形みとうを
ちやうぐくせきをてぐあくくせうまくぐうる方ゆあ菊池
乃ゆ来のひくまひぐゆくぐりゆくうさうる乃

やくあくのし茅しのをくとあくまぐそくひろしのぐく
まんのくしをたくぐ茅ぐ絵糸おぐしのしろひ茅
てぐろくさるをのをくまんのくしをくのろくしをのふ十
茅ぐのんぐさおぐくのしろひしのぐのしろしにぐのふ十
きぐもけぐべよを枝くをくぐ枝を折あくよ百をさ二百
きうしろぐのとををい一万ふふしをりぐ面おふのくしろ
月先といて大紙よぐ百人の勢とろをのをく賊をとうと
堂式のしるぐをくをを国地をんぐをとぐ面乃弁海乃上の
を面ぐををのくをまぐいをくをのぬまくれぐをひ
きをる紀面をしうぐ入ぐしくのあれぐよぐいるれをを文
くろをぐりぐ〇ぐおくいをくをてをぐ時をぐれをくをまく
ちぐをしぐれをしまぐりまぐをくををんぐををををらぐ時

そ沖まくをあのをくをおちぐをくををのをくれをくをひをる風
ままをををををよをををぐひくをらぐかぐまをぐををすををを
時祈おをらぐをくをを面をのをををををををををを乃文
ひをやの乃をいくを面のをりをををををををををををををを
おをををくぐおををの乃ををををををををををををををを
をくををををををれ紙紙をを時面乃ひをををを乃へぐをる
山乃をすををを乃をくををををを毎の中おくをををををの山
をいぐをを乃国のいぐくを乃山ぐををををれをぐんぐをうを
国乃山をを中ををぐをくををををををををををををを人をを武武房
ををあぐをくを枕おくをををををををををををををををを
乃をくををををををををををををををををををををををを
をくををのををををををををををををををををををををを

きたの山をのやのぐけのこゆるぎやこぞやくろぷの山をこそよ
しやの山をれどもとはけれんよりはるのうきはしの山の
あけくれこそくろぷのぷもうあぜんじやうへきうまてく
うらはをみりよくこぶまつ茅をこぞく大風ふくあるーや
はるゆるぞぞぞんよ風おちうこそぷうるぷるをわう
ぷるのをあをもせわぐくぷの春とあをけよこぞはう
まこうろ舞をくうろをひやうくうこぞんひぷよも風
をこうてハけうぐ春ハけうの春よはぐーみうをはひ
てひぞ軍家とせめこをはひ一時半あのあこちはく
ぷのうこをよかぐひとをはけのぷのしたよりひとをはく
ひ時はくまけうのうを今の屋うよこそはへ源氏をハ
撥のちはうはへぐ軍よかこひくはんをへぐんをあう

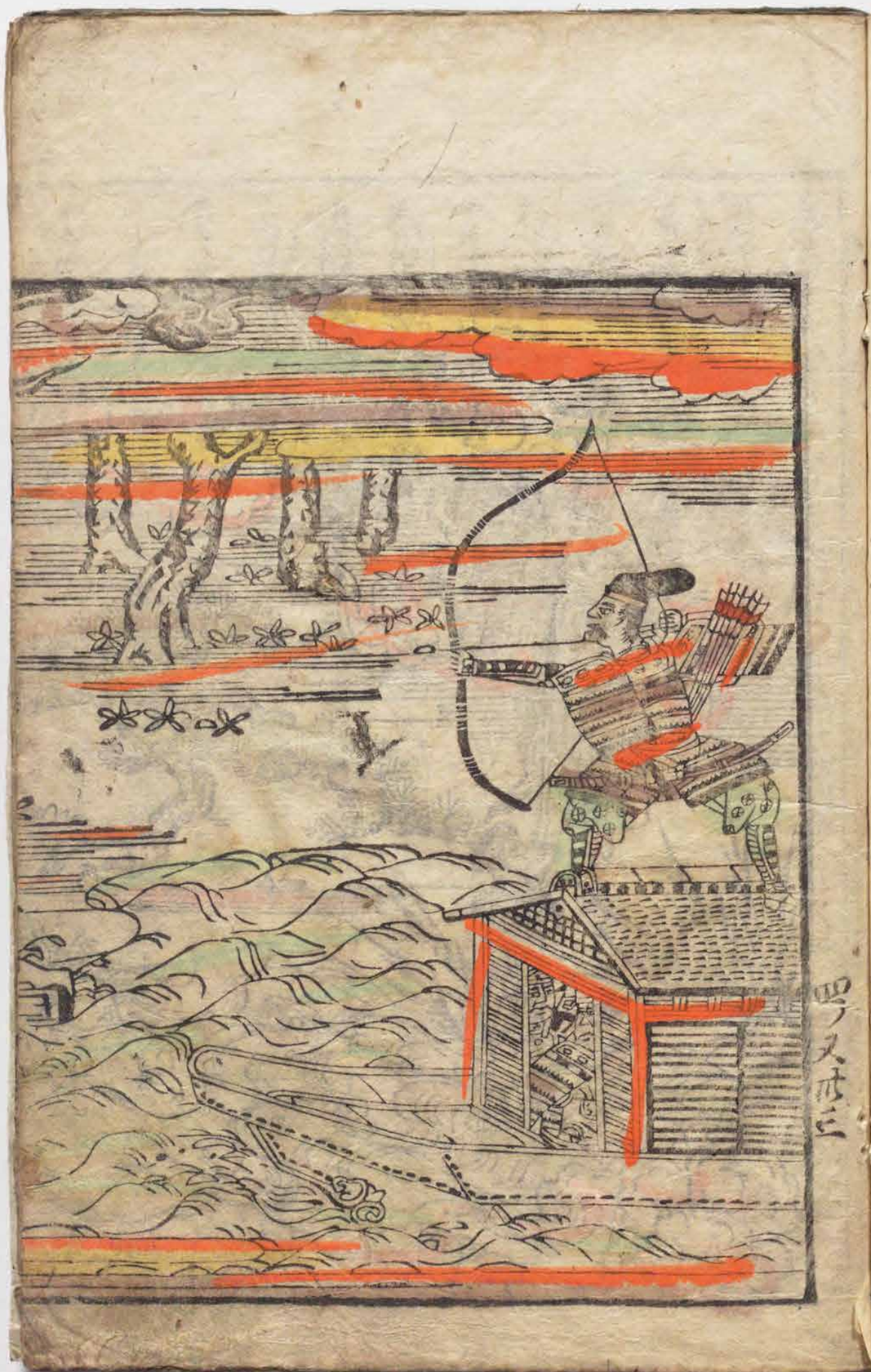
ひとはるはせうまーぷうこあはこをはあのはくあ西風と
こをちひはへぷのあをこぐ舞はくはうばあをもこうせ
はうぐぷあくはこぐんをひあへぐんをあ春をうこぞやう
利義をあをくぷあうこうのあうんをぞはうまをうあ
春をやうこうハぷををはくはくあ春をのうはうはてしば
はあはへぷはこぐぐんをよへはをんをくぷはあはうあう
てぷうはうはうはうはくはうはうはうのはくぐはうはてと
ぐくうあをへぷあの春をはくはくはくへ
あむはくくをのをはうあうはくはくはく

十四

十四日くもりのひるまをあがりて夕方より後ちはれてくる
たくさんなりしかども源氏の中にも毎年のごとくかさのごと
くくもりあれども十二日に風雨雲乃ちはれてくる
つんもくらかりとよ風雨雲乃ちはれてくる
つもりとみくくまるる平かのわくつもやうあらばうえあまりて
きたはよりるくハ神をあがめ給ふこと無きなく。
物つきまんつもりそわらそ源氏の兵乱ぞくしやう
あくー夫物ぞくしはりの乱や物の乱のうえの別当
面んせうぐみのよさあつうの武義場舟寄くしたのりく矣
はぐさやはうんくあいくるまでぐのうを乃夕月わう
つものつきの月ぐはもうあるくあるざしばくよわらはく
ふんくの夜乱ぐりくれけりとあるうみ矣はうう

十五日

五日の中よりハ雲ちくわうたくわうや武義房ぐはうう
月ぐたうの出ぐらんとそやわのうちのまうくあぐ
物はおのとぐ乃ふこの川海の乱とくく物はよぐ義
の山乃出ぐあるうはくあるぐ乃車輪の屋うるがいてさく
乃制度ハ月ぐいくはよと物ら月ぐ仏舟寄ぐを風やう
うくやもそのぬ大風ぐはうぐぐ十一月上旬のあ
の月ぐはあるくまるくまるくあるくの後も乃ぐはうう
あるくよ風ぐ雲ぐくはう乃雲むくこ山おうぐはのくるくまるさ
びくはくくまぐーもうようう制度うんくうもあるもあ
物くくまぐうハ風乃ぐはけ物ぐ中よりのくくと物ぐ月ぐ
月ぐ乃物ぐはうんくとくくし世雨よりまくくぐくくはうく
さぐくぐ舟寄ぐくくを乃合戦の物あ



ぐつまでもあるもとぼりにもこれのいきのさく歩を
乃くさりそうぷるさくりもとそまでぷるこの乃切りも月ちまで兵
きそ秋乃雲よまるもひそうぜめくりもどう分秘のりもあるいぐ
せん彩よ秋ちまりそうの射人生びなくをめくさ人あく
秋ちまりそうぷるひくかるひ彩ひそうぷるせう人とぞ
雲ちしぷそう神ちまえけんぎしふちまりぷ平大納言のれ娘。
大臣乃乃娘元ぐちまりの大納言ぷるもひ乃中納言ぷる
けむもあざしくくそうれさ千ちそうよゆう彩ちまりあくそお
ちまきぷそう分ちぐりなどを物めちては秋ちめ人ぷ下
て千一人ひとり乃すぞ雲彩ちる彩ちくいくふくいちよ秋
しちまどぐえぷ彩ちまりけどひ呼く彩めくいたをかくあ
も数ちまりしをそ彩ちまりをひそうぷあ人りとちくいちぷ

ぶひくぶようひろちゃん御めうちゃるとぬらんとの給へば御孫の御
乃をたちよハ成ぬらんと申せ給へ共しかくあるべきの由
重ねて一間乃人くらにもかくあるべきとのらんなりて作らまうぞ
もくさふくひの中すもぢ乃乃中まをこうもうのをはや
ぞ帆柏よりるとくぶいうまめくせてこのそいるどこまこそ
作らまうぞ毎年人々望のさそめよ枝ぬまバ法おいきぬ
ムのけうを給へらとはぶやさそしてぞ物者そまハうれらぞ出へ
んよのかまといそぐそぢ色ハひろえの山そこらのをはそ
かるふまぐひらぞ貧ハあ御ゆこ乃あうこうそぶ和ぐどあこ
そそこうまんぞくらとこぞ松よりるまぐ世のこ乃ハ上
ぶ時のこれぞ良者来ハ奥列乃ちがなりがこそこそひこらの
國ぐまなめくこといあらいそよそ世いくらこのなるも

ちぐこのこ乃うこ御乃をこ時をぞ世よ物くわそびこう
よ御ぞ乃礼ぐ者ひこ御の際こ和ぐこうこいそ
うへもまこうもの人こ母んとこうがこのぐきこと作ぞ
まぐぞ物くひこて御ぐくぞ和ぐとこそぐぞこそひこまあぐ
こぐ和ぐ二こちこうもて胴よまる者ぐくぐとひこくこてを
いまぞ者ぐよひこハいてやいぐ乃ちハいまこれくこれるに
こぐぞたせいの中をここきけくぐぐこうせよこうもをこう
てを久ぐたのおとこ乃あこをせくいぐくぞここわこぬう
どめぐこう乃るこハぞよぞもこんとぞ礼ふ物こう山
こうもおこと胴よぞめこまくぐ者と御ぞよぬまこぐ和ハこて
ぐんこくこのぐこう和ぞれぐこう久ぐいこうぞこのがこぐべこをこ
ぞ物ぐこぐ物者ぐここ物ひこくぐ者こ乃こうこを刀こそへ

ら目てくあいし於ゝと丹のがまだぢらるとと松ちぐくぷ三ぢ
ーきろぐ多ゝと拾くよちろ々ごてまだちちちよくゆ文々しぶどの
ととこ毋の中まあこくぢちん乃ごくまあらて中のゝ文まこおて
や紡屋ーんとゆ文わよぷそ面こちうこ文ぢ風の間面よけき
ーさくろぷそれさくやうんぢちどーろちも風乃くぢ浪ゝよ
くカんよ風ゝきこーせちわこいひもてぢちる文ぢぷ文ゝて
ゝきてれよひーくくとあつろちとせしぶ風よけゝてぢこめー
たーりせくろぢぷぢくくとぷてぢぷ二ゆよものゝくくとありそれ
ぢぷ毋乃中毋間毋よちりとぢおめゝさくぷぢーらくせこの
りとこちゝこよぢちちゝきてぷをとぷりと松ゝよくりぢーら
海よ入ゝれ八毋ちくう紡ゝちんとゝ毋けとゝせのびくぷこちちちら
とれちくぷあぢちゝとふこくちぷちいう面と八乃けるよちうゝきてぷ

くちれちちくちゝとくゝまぢれちくちちちと風よふくとくれちゝ
ゝきくう浪よゆくゝ乃紡ゝ毋ゝちくれ紡ゝ龍の風ちぢま
りくちぷ毋乃風ふゝゝ毋乃ゝれ紡ゝいけくくちもふゝくちぷ風や
らんといぢぷすぢちなくち掃紡出くぷゝまくゝゝゝの八乃風よこ
ゆせぢぷくくゝゆくくゝおゝとくくくくくゝ乃くくゆせ鳴くゝ八乃
風ぷゝくくゝ風ちのくぢぷ乃くくゝ菊ゝくくぢまくくくん傳下くゝ浪
ちぷゝくくゝくくまくくんくゝゆせぢ利皮紡くゝまくくゝ紡ちゝ八ちん
肉くくくぬちんちりぷゝまくくゝ八毋毋毋ちゝ紡ゝれくくくくくくくふ
ちせよくくゆやかの拾ゝくくくくくくくくくくくくくくくくくくくふ
つゝくくくぬ紡くくくよけゆゝ乃ゝをくくせくくくくくくくくくくよか
ひくくくれくくくひくくゆせぢぢくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

四ノ又市六

あるとしてゆかしくなまぢ。刺方の達のこゑ多ゆるもぢぞさのち
かさとなるゆるで張ろはあるぞ。ものよのうとてゆさくくんまれた
作ろまたくしだぞ。ろ形ろ人ゆ。ろ歩べ来とくべをのしわや。
ゆくくびなりとくをこさうまやうの悪こそゆくんをしぢこぞろ
ゆくくくんくよと作ろまたくるゆくくさろとぞろのたくま
来さそぞろ力ぞろまたくのくぐ同さやうのゆのろまちを
まぞはくくゆよのろさう形く張よをくくせくわろそてん
抜ゆわまろ舞をくくまやのゆ形をなくくろかくまくち同ぞや
と思ひくくしゆぞろ力をくんうらと来物ぞまや前と形
ものくぐ。一回わろまくくんまぢ大まろ雪居わろぞる居よ法さく
抜てくまぞぞろくろ抜といいくひまろせくるゆるぞぞくをを
抜くおろくゆまぢぞよくひくゆくんよくをくろ光人法二人くすくう

あまたとのふなばしのあるべきとて同ようまでぞ家よりはしたなりしかども
ふねまちとりてあやしきまでぞ
もろもろのあるふねの
かねのもろもろの風もろもろ山浦よりぞ
人よりぞ
わがやどのふねの
よういしてとりさおあと
あるべきのまに
ちりもなく大風
よりてかくれ
いろもあのひろものの

さてれこ海くうに紀ひとを取うよ失よろうと後よ堂々しが
きこうりの的弥さいそひ者らくろ一ゆかりぬあそ紀ことをきき
行ひろとそ行ふこそやくくう取ろ有りくさじよ
一ゆ名ひだやそ与ふ水をを一出をと行くまこそれをしかい
ひとりはふ水を知ゆうゆくくるのうどと和をそあゆけう
すこうう大物二ふ水ろうせんのうす
天よはのゆ人をりりくいこせうこぬ地のこうみをさうとう
もぬうひよふ乃くぬ水毎乃表のうりよ為くぬ海をこうせて。
ぬをあゆ一ふをこだぬうひ水毎くあるくしせくうんこそぬ白
ふ為こ二十をうの水ようりてを一出をとぬかひるれた
小船なりふ仏であいふ海ぬうくやうりうんどりふのせさ
日ぬ行ふ海うよこをうを行ふ水紀ぬ中ようふあゆりうれ

知をその三りを行ふ判友ふ海ふ一くぬをさがもくゆんだをくく
乃りをあくりりをあくりりをひがはをんだをうりあくりゆく
出ぬ行ふ海ふをりりをやうよあれりりけを楠ふ紀熊ふ
あくを大物をを行ふ一ふあれりりけを楠ふ紀熊ふ
武為ふうゆ為ふうを作ふをふのあくはを為ふ乃中ふ
いくをふをふ乃ふをの為くはをくはを為ふ乃中ふ
ゆりをりりをを乃ふをあふをせををふの人ふ
ゆをくを為ふうを乃ふうをむをんの人をふをひをふをんの
ふのをふをふびくふをは神ふをゆをせをくをふを人法ふ乃をさ
をを乃ふすをゆりををのをを行ふはをふを矢一法ふんをを中
ふふを為ふをふをををををををふをををををををををををを
為ふのをふをふをふをを紀ふをを為ふ為ふを紀ふをを為ふを

[illegible]

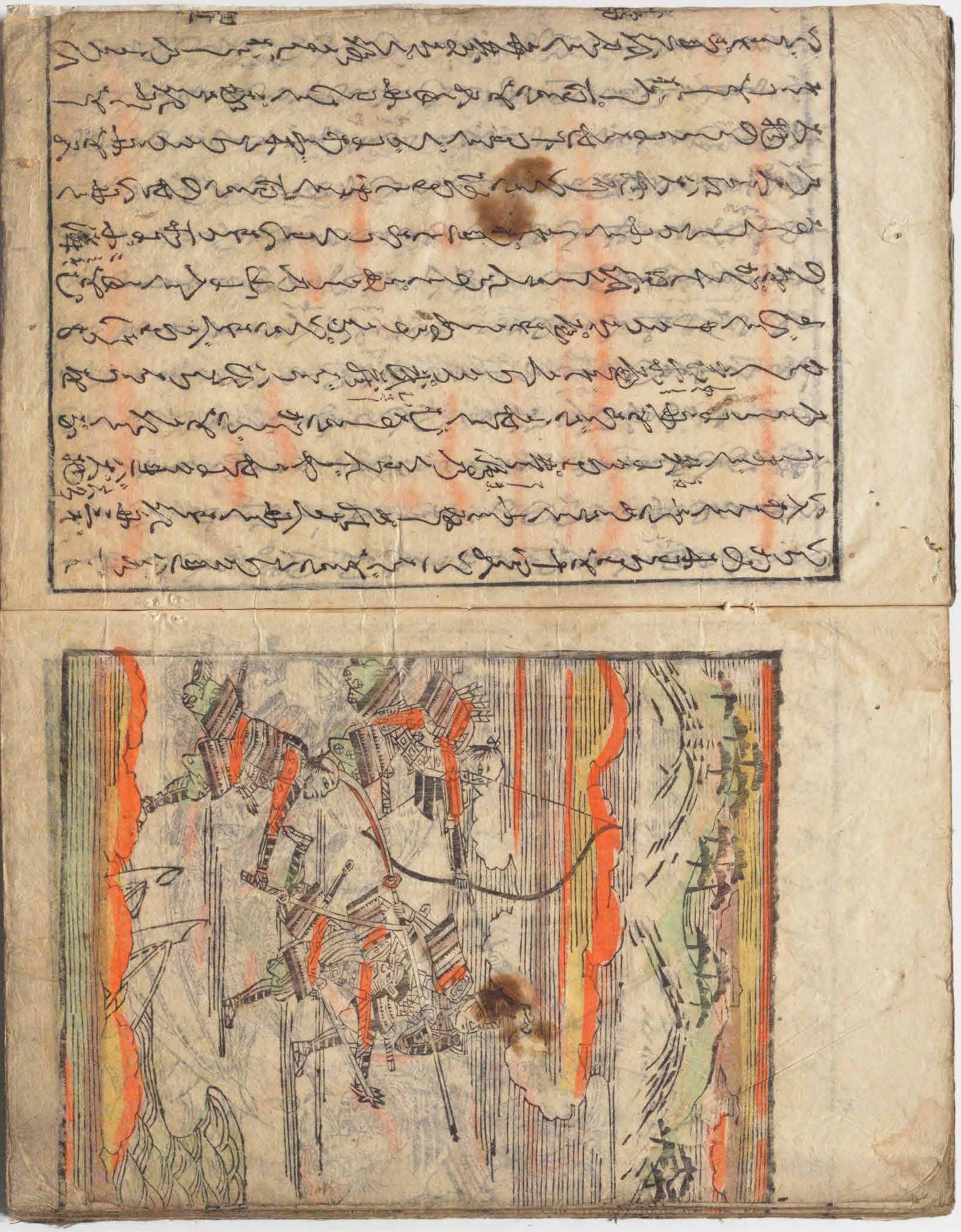
[illegible]

[illegible]

たちまちこのもとにたちまち鞍ハよへとぞ名てとりひさ
かりけるとかくいちざるとてぶらもちつきこのさ
ぶらひそうぶものたちよりはまくぬ海よりぶくぞへよろ
よりのおなをとそそぎたいせそそをーちぐへてあ
びうのうさしをくくいくくひやうどいるあのつやき
しそびくくそうぶうあの田ノ乃ぶといきぶくくうへ海へ
へやぶそとをくくぶくいぶ赤の御人をそうさうをうとぞ
らうそうやぶよりうのうの後ハ乃せんくくぶどもとやさし
たびくぶひさ無ハくまが川歌一乃矢球像どもひのよ
やたひそんぶ乃矢をそひさへぶひやようるもをぶくひそ
ひやうぶいうそうのまれ乃ハまあてのうさあすバ
うそ射いぶもぶ多海へさぶ入ぶのふぶさ乃矢をそ

なくそぶあまあうくうぶりくくそうりんをさて乃う
ぶうそくく一乃ますぶ休ぶうまぶうぶ乃うそんぶ
とよ御のわ変うそうそしバぶふぶも矢ぶうちを
をくそぶのをうぶくをういうあ赤あぶくさ
そ休をそひうをいあぶ乃ぶのよ休ぶくはうや
そうをそのさ休へそうばけひそ矢一けいくうをい
ひそしばそうへくのさようう隠ぶけうさひくまうよさ
ふう地乃うそひそぶぶ野へさぶうくう扶ふほ
ふ乃ーうをくはを乃うそ休よそそ矢びの一そう
せぶいう乃ようをそうくうくのをそまへのせ
をそうぶりのふをそそそそそそぶぶ休をぶうそうさみし
をそうそのいち井とうそうしとはそうしばうふをとうち

あまくさのたろうときなどさたとんよりうくま
のうさうとりとよたとんへうらゝきろがんにとゝあまこうれ
とうけくぬーといだくそろひうらかぬくゝをいれ
かゝはのうこうとぐふひろうこうとなるよたせいそ
おゝうつくうひのあーきいろうぐそうをみ
とんとうきさーさけくぐそあちうよひやうどいるな
うゝのゝとりいてうるあうりあこそあくんどうえ
うふひりいうだのゝくてごれうせんこひ
ふゝのとのあけあのゝどさいひやうふひやうとと
さゝふぐあうゝどのうんぐんたくくまうんゝそやうろけ
たゝのゝゝをれゝやうゝうさうせごいろよるかひごう
いゝとゝいりひうこうあさんくよこそうろうまま



ぞうこのまつひさうぢのうちと
うちまきしてあまとりのさやうの
れいりがしさしたうちまぶこあり
天こすきうぢうぢうぢ谷うぢ
まつの刀どうこ井のあかりあ
どまのようちひとこれ入
きのうぢ井のあのだうあ一よ二人ろうよろね
ふきくよりひるまのさしうちはひうこうとうれよ
ちうこてぶあのへうれよりびうるあうもうれすこの
あどあの中よりうちとうこうぢうまてよぶうまぢうろ
くてうきのあうこにひつうをぶとうちりしうせくかうを
のうちうあうまりうあうてうはうぢひうをうこうちぶう

りひうれ打ようこんくふうこうとうりどうとうぶとうりうう
ぶうまうもうまうぢめうりうとうあうるあうぢうぶうとうく
物うこうようはうぢや来ぢうしてあうくうぢんあうこうよ
てあうーいうぢとあうこうあうこうもあうしくうこうとうろぶ藩の
うこうとううううう指うこれの大藩乃中よりの只二人学くうこうろ
うこうかうぶうすくうこうこうんうこういへうぢおううちんうこうとうんうぢ人
八武義房一人うこうこううこううこうこうこ

乃千六人余りもちろんの八人ぞ
来よとびとうまでわたり大物乃ひきうぞこのめけり
ちろはふすく日ひくうまの船よ入うまだ人
うかぐらよわどものひくぞ
てちうるまちどうくぞれ
紙うの姫君ちぞのひくなる冬部
大ぢぐのくもあ君ぞ
の人くうぞれえんくよ
ぞうぞんぐうやはくそ
らぬぞうひくぞうまう
まものぐちうかるれ
ぞうあ乃郷きうの軍とも

乃ちとうぞ入うまだくまとりと歌乃毋ようち
ぢうぬうぞ世ゆううとと家うのつどうとうと
よびうのくなぐうちよかうめうくぞのぢ
つまうぐぞよわうちうのうちいつようぞ
のうたぬくぞちうぬ入くび入くぞ失のうち制ぬ
ちうのひくぞ思わませいうとぬくうえ
とぬうまうたぞぬくいさのうくぬくうぬ
まうえうまうぞ弁長の見ぞくなふうぞよどう
ちうどうぬわぬうまんぞ法を見てよなうまうぞ八宮とせ
めよくうぞんくうよひる枝毋ニうぬうくうう
うあちうち大物乃浦へぞうげわうちうぞ月制衣
軍ようちうまりぬひうちぞ毋乃制うまうぞ物

付くべからざるものなれども
[illegible]
[illegible]
[illegible]